



Vol. 02

2026年2月1日  
文責：豊田賢治

## 能登の生き物調査速報とは？

2024年1月の能登半島地震と9月の豪雨により、能登の自然環境は大きな変化に直面しました。加えて、気温や海水温の上昇、冬季の寒波や豪雪など、気候変動の影響も年々顕著になっています。こうした環境変化の中で、生きものたちはどのように暮らしているのでしょうか。私たちは2023年から、能登半島沿岸の海を中心に、森・川・人里を含めた生物調査を続けてきました。2025年以降は全国の研究者と連携し、誰もが参加できる調査手法の確立と情報発信を通じて、生きものの記録と環境教育を進めています。

\*本調査は石川県庁や環境省、そして地元漁業組合などを通して調査に必要な許可等を得て実施しています。

## 調査概要

### <調査日程>

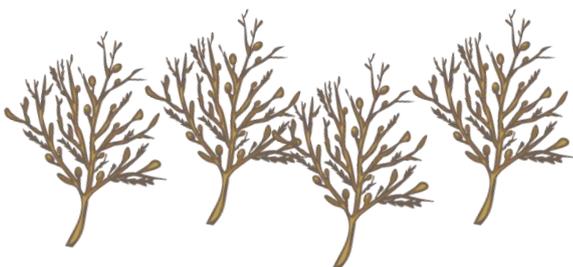
2025年3月22～26日

### <調査メンバー> \*所属と身分は調査当時のもの

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 豊田 賢治  | (広島大学・助教)        |
| 花井 真希人 | (九州大学・修士1年)      |
| 田作 勇人  | (北海道大学・修士1年)     |
| 角田 啓斗  | (金沢大学/広島大学・修士1年) |
| 中屋 直哉  | (東京理科大学・学部4年)    |
| 有村 拓真  | (広島大学・学部4年)      |



写真1：今回の調査チーム



## 1. スキューバ潜水によるホンダワラの葉上無脊椎動物の群集調査

能登半島・九十九湾の海中には、ホンダワラ類からなるガラモ場が広がり、多くの小さな生きものすみかとなっています。私たちは2023年、震災前の海の様子を記録するため、ガラモ場に暮らすヨコエビ類などの季節変化を調査しました。生きものは冬から春に多く、夏から秋に少なくなることが分かり、現在も地震後の変化を継続して調べています。今回の調査は、前回2月の潜水調査で回収できなかった試料を補完する目的で実施しました。

## 2. 夜間の磯調査

私たちは昼夜に生物調査を行っています。震災後は調査地が減りましたが、姫地区の岸壁や小木の磯で継続中です。夜はヘッドライトと手網でヤドカリ類や海藻下の小型無脊椎動物を調べます。今回は磯での採集が初めてのメンバーもいたのですが、各々が楽しみながら採集調査を実施しました。



写真2：夜磯の採集（小木）

## 3. 深層水施設における深海プランクトン調査

能登町にある海洋深層水施設「あくあす能登」では、沖合の水深約300メートルから海水がくみ上げられています。このとき、目に見えないほど小さなプランクトンも一緒に運ばれてくるため、施設にはそれらを集めるフィルターが設置されています。私たちは、このフィルターにたまる深海のプランクトンを、震災前から継続して調べてきました。今回も早朝に施設を訪れ、試料を採集しました。

## 4. 隆起砂浜の海浜昆虫調査

今回の遠征調査の最大の目的は、2024年能登半島地震によって約4mの海岸隆起が生じた、輪島市門前の鹿磯海岸における海浜昆虫の調査でした。鹿磯海岸では地震による隆起の影響で、震災前よりも砂浜が大きく沖側へと広がり、かつて潮下帯だった場所が新しい砂浜へと姿を変えています。このように新たに陸地となった環境に、これからどのような陸生生物が定着していくのか、まさに今は、生きものの遷移過程を調べる絶好のタイミングだと考えました。そこで、ハネカクシやゴミムシダマシなどの陸生昆虫、さらには水生昆虫を研究する学生にも協力してもらい、海浜昆虫の調査を行いました。調査では、波打ち際に打ち上げられた海藻を篩にかけ、トレーに落ちた昆虫を吸虫管ですべて採集します。この作業を、①陸側の砂地（隆起前は砂浜）と②現在の波打ち際（隆起前は潮下帯）の2地点で行い、種数や個体数を比較しました。正直なところ、「砂浜にこんなにも多くの昆虫がいるのか」と、驚きを隠せない結果でした。

本調査では鹿磯海岸以外にも輪島市、珠洲市、能登町の調査が可能だった13箇所の砂浜・磯浜海岸

でも同様の海浜昆虫調査を実施しました。その結果、珠洲市三崎町の砂浜海岸からウミゴミハネカクシ *Oreuryalea watanabei* を本州から初めて発見することができました (Tasaku et al., 2025)。



写真3：海浜昆虫の調査の様子（鹿磯海岸）



写真4：海浜昆虫の調査の様子（輪島市）



写真5：海浜昆虫の調査の様子（小木）



写真6：陸生昆虫の調査の様子（松波）

## 5. ヒラタブンブクの大量漂着

上記4の海岸調査の際に能登町のとある海岸においてヒラタブンブクの死骸が大量に漂着しているのを発見しました。いずれの個体もすでに白化して風化が進んでいたため漂着してからしばらく時間が経過していたようですが、何か海の異変の痕跡かもしれないと思い、学生が一部の標本の計測や回収を行いました。

## 6. 珠洲市のビオトープの水生动植物調査

珠洲市三崎町に整備されているビオトープでは、事前に採集許可をいただいたうえで、手網を用いた水生昆虫の採集調査を行いました。あわせて、ビオトープ全体を見渡しなが、水生植物の分布や種類についても目視調査を実施しました。調査当日は風が非常に強く、おそらく大量の花粉が舞っていたのでしょう。記録係を担当した私（豊田）は、鼻水と涙が止まらない状態で、正直なところ「とにかく大変だった」という記憶しか残っていません。



写真7：ビオトープ調査の様子（珠洲）

### <謝辞>

スキューバ潜水調査は、金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設の小木曾正造氏および鷹巢真琳氏のご協力により実施しました。深海プランクトン調査にあたっては、海洋深層水施設「あくあす能登」のご協力をいただきました。本研究は、黒潮生物研究所研究助成（代表：角田）、公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金（代表：豊田）、タカラ・ハーモニストファンド助成事業（代表：豊田）、ならびに2025年度金沢大学環日本海域環境研究センター共同研究（採択番号：25033、代表：豊田）の支援を受けて実施されました。

### <参考文献>

Tasaku, Y., Nozaki, T., Wakimura, R., Hanai, M., Tsunoda, K., Nakaya, N., Arimura, T., Toyota, K. (2025) New Record of *Oreuryalea watanabei* Assing et MaruyAMA, 2002 (Coleoptera, Staphylinidae) from Honshu, Japan. *Elytra, New Series*, 15 (2): 161-162.

### <問い合わせ先>

我々の活動に関するお問い合わせは以下までお願いいたします。

- ・氏名：豊田賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授）
- ・研究室 HP: <https://sites.google.com/site/toyotadaphnia/>
- ・Email: toyotak@hiroshima-u.ac.jp